

## 可茂地区研究協力校： 可児市立蘇南中学校、可児高等学校

## 平成13年度の成果と課題

## 研究体制、教師の意識等について

授業の実践・交流を通して、「音声を重視した言語活動を通して、教科の基礎・基本をどう培うか」という方向性を明らかにすることができた。

中高の「連携・系統」に留意した授業実践が担当者レベルでしか行われておらず、さらに、生徒の変容を足場に、教科部の実践へと広め、深めていくことが求められる。

授業実践について、さらに「日常的に」かつ「生徒の学習の姿で」、交流が行われることが求められる。

## 生徒の実態等について

## &lt; 中学校 &gt;

「聞くこと」「話すこと」を中心とした言語活動に対して大変意欲的に取り組む。英語を駆使したコミュニケーションをきちんと行うための、表現力・理解力の高まりが求められる。

## &lt; 高等学校 &gt;

4領域、特に「聞くこと」「読むこと」にかかわる技能の定着がみられる。音声を中心としたコミュニケーション活動に対する積極さや自己表現への意欲が望まれる。

## 研究主題

音声を大切にしたコミュニケーション活動を通して、  
基礎的・基本的な内容の定着を図る授業づくり

## 平成14年度の具体的な取組内容

## 中学校として

## 使用教科書についての相互理解とその指導計画の交流

- 教科書の校内展示、教科書の内容についての共通理解、指導計画の作成意図の説明・理解

## 授業実践の交流

- 実践した授業の指導案やかかわる教材や学習プリント、生徒作品等の交流
- 授業の公開(中学校・高等学校各2回)

## 指導計画の工夫

- 単元や1単位時間のねらいを明確にするとともに、付けたい力を生徒が運用する英語から明確にして、評価規準を位置付ける。

## 指導過程・言語活動の工夫

- 基礎的・基本的な内容の定着を図るための繰り返しの指導を位置付けるとともに、音声を重視した言語活動の工夫をする。
- コミュニケーションの必然があり、生徒の創造性や独自性が生かされる言語活動の工夫を図る。

## 学習環境の充実

- 言語や文化、人へのあこがれや積極的なかわりを育む教材・掲示物等を開発する。
- 実際のコミュニケーションの楽しさや喜びを実感できるように、ネイティブ・スピーカー等の積極的な活用を図る。

## 高等学校として

## 指導計画の工夫

- 中学校3年間の内容と関連性・系統性に配慮するとともに、4領域のバランスに配慮した指導計画を作成する。

- 単元や1単位時間のねらいを明確にするとともにどの生徒にも付けたい力を生徒が運用する英語により明らかにする。

## 指導過程・言語活動の工夫

- 「聞くこと」「話すこと」にかかわって、生徒同士のインタラクションを大切に言語活動を工夫する。

- 身に付けた基礎的・基本的な内容を積極的に駆使できるように言語活動の工夫を図る。

## 学習環境の充実

- 英語圏の文化等への知的好奇心を高めたり、自ら英語の運用力を高めたりできる教材を開発する。
- 実際のコミュニケーションの楽しさや喜びを実感できるように、ネイティブ・スピーカー等の積極的な活用を図る